

# 2024.1.1 能登半島地震

16時10分、能登半島の地下16kmで発生した内陸地殻内地震。マグニチュード7.6、最大震度7(高岡市伏木では5強)を観測。私は自分自身が被災者である体験をとおして被災地の方々の心に寄り添い、被災地からの切実な声を議会に届け、復旧復興が実現するまで手厚い支援を求め続けます。

1 地域の皆さんと液状化により噴き出した土砂の除去作業。



皆さんの声に耳を傾けながら、被災状況を確認。

1 4 県庁の執務ははじめの日でありましたが新田知事に被害状況を説明し、早急な支援と対策を直接要望。翌日に伏木地区へ現地視察に入ってもらう。



県庁の執務ははじめの日でありましたが新田知事に被害状況を説明し、早急な支援と対策を直接要望。翌日に伏木地区へ現地視察に入ってもらう。

1 5 自民党富山県議会議員会政調会による視察団を案内。



1 17 坂伏木校下自連協会長と被害の大きかった自治会長(石坂の二口会長、中道の能森会長)とでラジオ番組に出演し、伏木地区の被災状況や課題等について話をさせていただく機会がありました。



2 1 伏木地区能登半島地震復旧復興連絡協議会を発足。地域の主だった各種団体の代表者で構成し、震災の復旧復興に向けて被災された方々だけでなく地域全体として取り組んでいくことを確認。



伏木地区能登半島地震復旧復興連絡協議会を発足。地域の主だった各種団体の代表者で構成し、震災の復旧復興に向けて被災された方々だけでなく地域全体として取り組んでいくことを確認。

1 20 松村防災担当大臣、堂故国交省副大臣による現地視察。そのあとの意見交換会では岸田首相から「できることはなんでもやる」との力強いメッセージも伝えていただいた。



松村防災担当大臣、堂故国交省副大臣による現地視察。そのあとの意見交換会では岸田首相から「できることはなんでもやる」との力強いメッセージも伝えていただいた。

2 3 自民党富山県連の会議で地震による液状化の被害の窮状を説明。



自民党富山県連の会議で地震による液状化の被害の窮状を説明。

## 議員活動ダイジェスト

2023 8/21~8/23



地方創生産業委員会の県外行政視察(福井県、和歌山県)

2023 10/14



第14回北信越県議会議員野球大会に出場 残念ながら初戦の石川県に敗れる

2023 10/23



県議会自民党東部活性化協議会に交って黒部宇奈月キャニオンルートを視察

2023 12/18



県立福野高等学校にて主権者教育を目的とした出前講座

2023 12/21



富山大学高岡キャンパス軽金属材料共同研究棟を視察

2024 2/4



北陸新幹線 金沢-敦賀間開業試乗会 いよいよ3/16に延伸開業

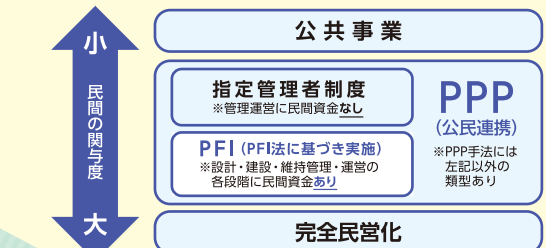


## 用語集

この言葉  
どんな意味?

P2 ※1 [PPP/PFI]

PPP(Public Private Partnership)とは行政と民間がそれぞれの強みを活かし、連携して公共サービスを提供するスキーム。公共施設の設計、建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うこと。  
PFI(Private Finance Initiative)は上記PPPの代表的な手法のひとつ。民間の資金とノウハウを利用して公共施設の効率的な活用を図ろうとするもの。



P2 ※2 [黒部宇奈月キャニオンルート]

黒部峡谷トロッコ電車の終点である樺平と立山黒部アルペンルート内の黒部ダムを結ぶ新しい観光ルート。もともとは電源開発に伴い工事に整備されたルートで、過酷を極めた工事の壮絶な歴史を学ぶことができる。多様な乗り物が経験でき、大自然も景観も素晴らしい。令和6年6月から一般開放・旅行商品化される予定だったが地震の被害で10月に延期になった。



このまちの自然、歴史、文化を伝える

# 針山たけし県政報告

発行者 / 自由民主党富山県議会議員会 針山たけし

vol.8  
令和6年  
4月発行



### 県議会 9月定例会 予算特別委員会

1. 公共交通の活性化について
2. 教育の振興等について
3. 安全・安心の確保について

### 県議会 11月定例会 本会議 一般質問

1. 公共施設の整備・運営について
2. 国際交流の推進等について
3. 氷見線・城端線の再構築について

### 県議会 2月定例会 本会議 一般質問

1. 令和6年能登半島地震からの復旧・復興について

## ごあいさつ

令和6年元日に能登半島を震源とする大きな地震が発生しました。これまでに経験をしたことのない長く大きな揺れは北陸3県や新潟県に甚大で深刻な被害をもたらしております。

犠牲になられた方々にお悔やみを申し上げますとともに被害を受けられた方々にお見舞いを申し上げます。また、震災からこれまで復旧復興にご尽力をいただいているすべての皆様へ感謝申し上げます。

私自身も家屋被害を受け、断水も経験した被災者のひとりとして今回の地震による災害を風化させることなく、長く困難な復旧復興に全力で取り組みます。また、いつくるかわからない災害への防災減災対策にもつなげていかなければなりません。

次世代に「まちの自然、歴史、文化」を伝えるため私たちができること、するべきことに邁進していく所存でございます。

引き続き皆さまの変わらぬご支援、ご指導をお願いいたします。

針山 健史

最新情報はここから → 針山たけし 検索

